



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第66号

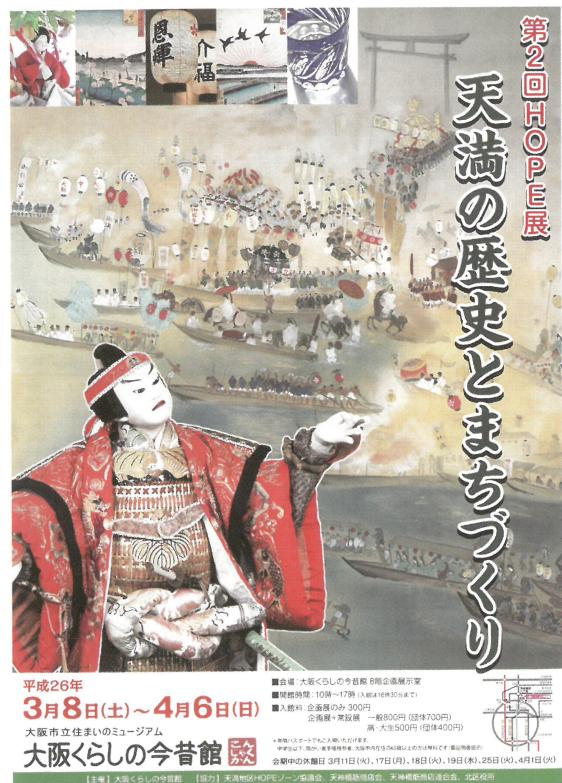
# てんまてんじん



涼風道上

平成二十六年 盛夏

第二回HOPE展	3 頁
「天満の歴史とまちづくり」	3 頁
大阪天満宮所蔵古文書から④	
正遷宮寄進史料	4 頁
神仏靈場会	6 頁
外国人をおもてなし	7 頁
天満天神の水	11 頁
大提灯の奉納	16 頁



展覧会チラシ

今年春、今昔館では第二回HOPE展「天満の歴史とまちづくり」を開催しました。これはHOPEゾーン\*に選定された地域の歴史や魅力を発信することを目的に、第一回は平成二三年に平野・住吉・田辺地区、第二回目にあたる今回は、今昔館の地元である天満地域を取り上げました。

**天満の歴史とまちづくり**  
大阪くらしの今昔館 第二回HOPE展  
平成二十六年三月八日(土)~四月六日(日)

江戸時代の天満は大坂三郷の一つ、天満組と呼ばれ「天満の天神さん」と親しまれた天満宮の周囲に町が発展し、大川沿いに天満青物市場はじめとする市場が軒を連ね、商いの場として賑わう一方、天満宮の北側は、落語や人形浄瑠璃の小屋などが立ち並ぶ大坂有数の遊興地でした。このような歴史をもつ天満地域で日本有数の商店街などがあります。展覧会ではこうした天満の魅力を伝えるために、歴史資料、美術資料、民俗資料の他、現在北区で活躍する伝統工芸の職人さんの作品、天神橋筋商店街から老舗のお宝などをご提供いただき展示しました。とりわけ、地域の核ともいえる大阪天満宮には天満の歴史と特性を示す貴重な資料を多数ご出品いただきました。天満宮所蔵資料を中心に展示資料を紹介します。

**【民俗資料】**流鏑馬神事装束・馬具一式、御迎え人形(大阪府指定文化財)、鳳神輿・鳳凰飾り、玉神輿宝珠飾り

**【歴史資料】**「大阪古今大火一覽図」、「開化わらい」(高島幸次氏所蔵)、「宮崎八十八関係資料」(宮崎博文氏所蔵)

御迎え人形(羽柴秀吉と佐々木高綱)、鳳神輿の鳳凰飾り、玉神輿の宝珠飾りなど、天神祭関係の資料が人気で、特に通常は間近に見ることができない神輿の飾りを熱心に見学されるお客様が大勢いらっしゃいました。

また、これまで公開される機会が少なかつた全長四〇メートルに及ぶ画卷「夏祭渡御列図」「夏



展示会場の様子

\*HOPEゾーンについては大阪市のHPで詳細が紹介されています。

六月二十八日、本年の天神祭に奉仕する神童などの重いお役の五名の方々に、宮司から辞令を交付して所役奉仕をお願いする「装束賜式」が執行されました。当役の六名は辞令を受け取った後、それぞれの装束をつけて「社参之儀」を行い、本殿にて報告をされました。

この儀式は、宮中の儀式に奉仕を命じられた官人や、重要な神社の祭儀に差遣される公家などが決まるとき、當日に着用する装束を授けられたことに由来しています。また、祭儀上の潔斎を開始する精進入りの意味合いも含まれています。

本年の奉仕者は以下の方々です。

神童	林 欣次郎
猿田彦	波多野 肇
隨身	宮野 貴大
隨身	岡部 亘成
牛曳童兒	寺井 種輝
牛曳童女	中桐麻佑加



これは暦の違いによる変更でした。が、実は一日の区切り方も、古代人と現代の私たちでは随分変化しています。その結果、「宵宮」の理解にも大きな影響をもたらしたのです。私たちは、「宵宮」前夜祭」だと考へがちです。クリスマス・イブの影響かも知れません。たしかに、二五日の「本宮」の前日が二四日の「宵宮」なのですから、それで正しように思えます。最近では「宵宮」を「前夜祭」と説明する国語辞典さえ出てきました。

しかし「宵宮」の由来を紐解くと、少しニュアンスが異なります。我が國の先人たちは、夜は神様の、昼は人間の時間と考えていました。そして夜は、さらに「夕(ゆうべ)・宵(よひ)・夜中(よなか)・曉(あかつぎ)・

曙光(あけぼの)・朝(あした)」と区切られ(時とともに変化しますが)、その後に人間の「昼」を加えていました。テレビのCMで「朝(あした)」に月二五日に斎行されていますが、江戸時代には天神様(菅原道真公)のお誕生日である六月二五日を祭日としていました。明治五年にそれまでの太陰太陽暦に代えて太陽暦が採用されたことによる変更でした。

これは暦の違いによる変更でした。が、実は一日の区切り方も、古代人と現代の私たちでは随分変化しています。その結果、「宵宮」の理解にも大きな影響をもたらしたのです。私たちは、「宵宮」前夜祭」だと考へがちです。クリスマス・イブの影響かも知れません。たしかに、二五日の「本宮」の前日が二四日の「宵宮」なのですから、それで正しように思えます。最近では「宵宮」を「前夜祭」と説明する国語辞典さえ出てきました。

しかし「宵宮」の由来を紐解くと、少しニュアンスが異なります。我が國の先人たちは、夜は神様の、昼は人間の時間と考えていました。そして夜は、さらに「夕(ゆうべ)・宵(よひ)・夜中(よなか)・曉(あかつぎ)・曙光(あけぼの)・朝(あした)」と区切られ(時とともに変化しますが)、その後に人間の「昼」を加えていました。テレビのCMで「朝(あした)」に月二五日に斎行されていますが、江戸時代には天神様(菅原道真公)のお誕生日である六月二五日を祭日としていました。明治五年にそれまでの太陰太陽暦に代えて太陽暦が採用されたことによる変更でした。

## 天神祭の「宵宮」

### 「前夜祭」は何日?

曙(あけぼの)・朝(あした)と区切られ(時とともに変化しますが)、その後に人間の「昼」を加えていました。

テレビのCMで「朝(あした)」に月二五日に斎行されていますが、江戸時代には天神様(菅原道真公)のお誕生日である六月二五日を祭日としていました。明治五年にそれまでの太陰太陽暦に代えて太陽暦が採用されたことによる変更でした。

それはともかく、古代人の時間感覚で大切なのは、神様の時間の後に、人間の時間がやつてくるという考え方です。ですから、この考え方方が生きていた時代には、より重要な祭儀は神様の時間である「宵宮」に行なつていたようです。

ところが、現代では真夜中の零時を一日の区切りとしますから、宵宮を「前夜祭」と理解してしまうのです。しかし、我が国の伝統的な考え方では、二四日の夕方はもう天神祭の当日だったのです。

このように考えますと、毎年の二三日のOBP(大阪ビジネスパーク)で行われる「天神祭前夜祭」のネーミングは、意外に的を射ているようです。

(高島)

船渡御図」を展示しました。展示ケースの制約があり全体を展示することは出来ませんでしたが、大正期の渡御の様子や、背景に描かれた当時の町並みなどが興味深い資料です。さらに、天満宮境内で易者をし、後に出版業で成功し寄席や映画館を建てて、天満の演芸の振興に大きな役割を果たした「宮崎八十八」の資料を初公開しました。

期間中の来場者は六九五四人。豊富な展示資料を通して天満の魅力を伝えることが出来たのではないかと思います。



図② 天満宮正遷宮寄進録 弘化二年四月

へ遷されたため、氏地はお宮と離れた旧地にあるわけです。

天満宮の氏地町々の中で、もっとも多額の寄進をして、大関として名前があがっている又次郎町について、見ていきましょう。

又次郎町の場所は、地図で示しましたが、現在の町名では、天神橋二丁目および南森町一～二丁目に含まれるようです。

又次郎町が奉納した一五〇貫は錢で、先ほどの交換レートで換算すると、金三七両二分、銀では二貫二五

へ遷されたため、氏地はお宮と離れた旧地にあるわけです。

天満宮の氏地町々の中で、もっとも多額の寄進をして、大関として名前があがっている又次郎町について、見ていきましょう。

○匁となります。まあ、小説上のことは、和助さんは大関又次郎町が寄進した額にほぼ匹敵する額をひとりで寄進したことになりますね。

また、「江戸の金遣い」に対して「銀遣い」と言われた大坂で、なぜ、寄進するのに銀ではなく、銭で納めるのでしょうか。果たして一五〇貫もの銭をどのようにして奉納したのでしょうか。こんなギモンが湧いてきましたが、その解決のヒントを与えてくれる史料が大阪天満宮所蔵古文書の中にありました。

○匁となります。まあ、小説上のことは、和助さんは大関又次郎町が寄進した額にほぼ匹敵する額をひとりで寄進したことになりますね。

また、「江戸の金遣い」に対して「銀遣い」と言われた大坂で、なぜ、寄進するのに銀ではなく、銭で納めるのでしょうか。果たして一五〇貫もの銭をどのようにして奉納したのでしょうか。こんなギモンが湧いてきましたが、その解決のヒントを与えてくれる史料が大阪天満宮所蔵古文書の中にありました。

寛政七年（一七九五）六月「寄進受納帳 壱番」（大阪天満宮所蔵古文書H-11）は分厚い袋綴の帳面で、氏地各町内からの寄進を克明に記録しています。これは、寛政四年の天満大火で天満宮が被災したあと、復興再建に向けての寄進です。この寄進帳に記載された又次郎町の寄進額は、

合わせた又次郎町全体として、

弘化二年の寄進額とほぼ同じくらいの高額の寄進と考えら

今年、四月～六月にNHK木曜時代劇「銀二貫」が放送されました。高田郁さんの小説『銀二貫』をドラマ化したものです。

天満の寒天商井川屋和助が、仇討で父親を殺された子の命を、天満宮へ寄進するべき銀二貫で救うところから物語は始まります。和助に助けられた武士の子が、やがて一人前の大坂商人として成長し和助の店を継ぐというストーリーを縦軸に、安永六年（一七七七）の天満の大火で被災した天満宮の再建に銀二貫を奉納しようと、始末、才覚、神信心を生活信条に苦心惨憺する和助と番頭善次郎の話を横軸にして、物語は展開します。結局和助と善次郎が念願を果たし、天満宮へ銀二貫を寄進することができたのは、寛政十二年（一八〇〇）のことになるのですが、その間、寛政四年（一七九二）に再び天満大火があり、天満宮は被災します。

和助が生涯をかけて寄進した銀二貫とは、どれほどのものであつたのでしょうか。

江戸時代は、金、銀、銭が流通する三貨制度で相場は変動しましたが、和助さんの銀二貫は、金一両＝銀六〇匁＝銭四〇〇〇文（四貫文）が標準となりました。和助さんの銀二貫は、金一両＝銀六〇匁で換算すると、金三三両少しになります。この額を図①の刷物（大阪天満宮所蔵古文書E-31）に掲載された寄進額とくらべてみましょう。

### ◆高田郁著『銀二貫』によせて

この時の正遷宮は享和元年（一八〇〇）に行われました。

江戸時代の大坂天満の商人の生き

方をさわやかに描いたこの作品には、

悪人は一人も登場しません。著者高

田郁さんのお先祖さんが、天満でご

商売をされていたとのこと。和助さ

んと善次郎さんは、遠いご先祖さん

のお名前だそうです。

弘化二年四月新版

やく弘化二年に復興再建が成り正遷宮を斎行することができます。それに対して生國魂さんの場合は式年遷宮が斎行された際に両神社の氏地町々から奉納された寄進額を表しています。天満宮は、天保八年（一八三七）の大塩焼けで全焼し、よう

ています。天満宮は、天保八年（一

生玉宮

天満宮 正遷宮寄進物大見立名寄鑑

大岡百五十貫（貫） 天満宮 又次郎町 関脇百五十貫 天満十丁目 小結二十枚・三十五枚 堂嶋船大工町 前頭七十枚・五十枚 同（天満）二丁目 同七十枚・十枚 堂島三丁目 同米五十俵 南農人町一 氏地番匠中

生玉宮

天満宮 正遷宮寄進物大見立名寄鑑

大岡七十五貫・米三十俵 弁兵衛町

閑脇百二十貫・金三両 北革屋町 小結二十枚・五十枚 内淡路町一

前頭百枚・金五両 南農人町一 氏地番匠中

生玉宮

天満宮 正遷宮寄進物大見立名寄鑑

同米五十俵 天満宮

生玉宮

天満宮 正遷宮寄進物大見立名寄鑑



# 外国人参挙者の 「お・も・て・な・し」

昨年の訪日外国人旅行者の数は観光ビザ発給の要件緩和や、格安航空会社（LCC）の就航拡大、さらには円安の影響などを受けて、初めて一千万人を越えました。これからも海外からの日本への関心が高まる

ようと思われます。当宮においても、ここ近年、アジア諸国を中心には海外からの参拝者が増えていて、とくに今年に入つてからは、アジア圏のみならず、様々な国の方々がお参りに来られております。



頂き、解りにくい点や、どのようなことが喜ばれるのかなど、調査しながら進めていく予定です。

海外の方を受け入れることは、決して外国人のためだけではなく、実は私たち自身のためにもなるはずです。私たちが当たり前に受け止めている日常のさりげない行動が、外国人には特に興味深いこともあるようです。そのような経験により、改めて私たちが自国の文化を再認識さ

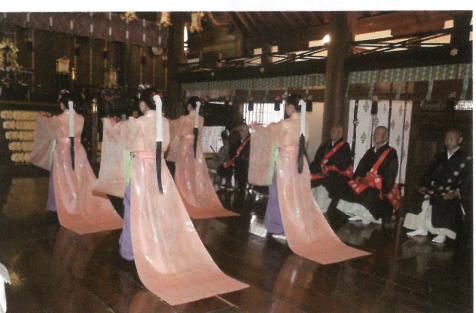
せられる事も多々あるようです。我が国はまだまだ、観光においては途上国と言われますが、昨年の流行語大賞にもなりました「お・も・て・な・し」の心を持つて、一人でも多くの方に日本に来て良かつた大阪天満宮にお参りして良かったまた訪れたいと思つていただけるよう心がけたいと思つています。

そのためには、私たちも、語学の勉強に励まねばと思いを新たにする今日このごろです。

「神仏靈場会」とは、「神か仏か」のいずれかを選ぶような対立関係ではなく、「神も仏も」という、「神仏和合」の精神を取り戻そうと、平成二十年三月に設立されました。現在伊勢の神宮と近畿地方の百五十の神社、寺院が加盟しています。

例年、定例総会を加盟社寺において、神社と寺院で毎年交互に開催しますが、平成二十六年度の定例総会を當宮にて「神仏合同世界平和祈願祭」を執り行つておられます。六月二十七日に開催されました。

たことでした。御本殿から聞こえる、表白や般若心経に驚いておられたが、皆様に神仏靈場会の主旨と、会同祈願祭の説明をしました、「すごい日」に来ることができた!』



同祈願祭では五十社寺を越える神職・僧職や、満願者の方々合わせて百三十名が参列され、当宮寺井宮司が斎主を務めて祝詞を奏上、東大寺の北河原公敬長老が表白を奏上され、ともに國家の安泰と世界の平和、人間の安寧を祈願いたしました。

大いに感激されておられました。  
御本殿での合同祈願祭の後、天満宮会館に於いて、総会が開催され新会長に石清水八幡宮の田中恆清宮司が選ばれました。

すでに、全社寺巡拜の満願を果たされた七百名に加えて、今後ますます満願者が増えるようお祈り申し上げますことごとく、皆様の巡拜をいた



# 黄梅祭

六月十一日、梅の収穫感謝祭「黄梅祭」を斎行のため、寺井権宮司をはじめ神職・巫女が、和歌山県日高郡みなべ町の㈱東農園の本社工場へ出向しました。



の実や、梅漬の時にできる梅塙などを神饌として献進され、収穫を感謝して社業の繁栄が祈念されました。

この後、御料梅林（神園）へ神職が出向して清祓之儀を斎行し、広大な樹園の中にある四千m<sup>2</sup>、約二百本の梅をお清めいたしました。

祭儀が終わって、東農園が所有さ

すと消えたような気が致しました。天神様と梅はとてもご縁の深いものですが、このご縁を頂いてさらにご縁が広がってまいりましたのは、まさに御神縁というべきなのでしょう。未長くご崇敬を賜りますようお願いいたします。そしてまた、来年は今年で十一回目となります。

東農園はもともとこの地方の豪農でした。江戸時代の天保五年から梅つくりをはじめられた歴史ある梅農家です。当宮とのご縁も昭和五十七年からですのでとても長い間のご崇敬を頂いていることになります。

当日の早朝にバスで出発した一行は、十一時から工場で祭典を執行しました。この祭典には摘みたての梅

一同は大変嬉しく、日頃の疲れもすっと消えたような気が致しました。

天神様と梅はとてもご縁の深いものですが、このご縁を頂いてさらにご縁が広がってまいりましたのは、まさに御神縁というべきなのでしょう。未長くご崇敬を賜りますようお願いいたします。そしてまた、来年は今年で十一回目となります。

東農園はもともとこの地方の豪農

でした。江戸時代の天保五年から梅つくりをはじめられた歴史ある梅農家です。当宮とのご縁も昭和五十七年からですのでとても長い間のご崇敬を頂いていることになります。

当日の早朝にバスで出発した一行は、十一時から工場で祭典を執行しました。この祭典には摘みたての梅

一同は大変嬉しく、日頃の疲れもすっと消えたような気が致しました。

天神様と梅はとてもご縁の深いものですが、このご縁を頂いてさらにご縁が広がってまいりましたのは、まさに御神縁というべきなのでしょう。未長くご崇敬を賜りますようお願いいたします。そしてまた、来年は今年で十一回目となります。

東農園はもともとこの地方の豪農

でした。江戸時代の天保五年から梅つくりをはじめられた歴史ある梅農家です。当宮とのご縁も昭和五十七年からですのでとても長い間のご崇敬を頂いていることになります。

当日の早朝にバスで出発した一行は、十一時から工場で祭典を執行しました。この祭典には摘みたての梅

## 浪速菅廟吟社詠草

雪枝 松村暁二撰

〔語釈〕茅舍＝自分の家の謙譲語。天真＝天真爛漫のこと。蝶夢＝莊子の齊物論に出てくる故事。

我が家の春、老いた母は子供のようないいでも負など笑ってくださるな。（老母との暮らしこと世の不条理にも負けず好詠されている）。

三月席題 村園散策  
蒼雲 高畠弘子 横浜市  
閑遊春鳥小池阿 人唱邱園邑里歌  
行尋花徑香留處 豊郁風痕止屐多

〔語釈〕阿＝隅っこ。邱園＝岡の公園。  
邑里歌＝町の民謡のようなもの。花徑＝花の咲いている小道。屐＝下駄

（訓読）野鳥は小さな池の畔であそび、散歩の公園で人は何やら民謡のよう

な歌を唱つてている。私は花の咲く小徑を歩き、風が吹き去ったあとに馥郁たる香りがした。

〔語釈〕阿＝隅っこ。邱園＝岡の公園。  
邑里歌＝町の民謡のようなもの。花徑＝花の咲いている小道。屐＝下駄



## 御神水「天満天神の水」

### 天神祭にお披露目

かねて本誌でもお知らせしてきました通り、江戸時代に美味で評判だった当宮の井戸水を再現する試みは、ようやく皆様にお届けできる技術的な目途はたちました。

しかしながら、その実現にはまだ多額の費用がかかるため、現在、皆様の御奉賛を募つております。ぜひとも社務所にお問い合わせください。天神の水を取水することにいたしました。往時の美味をご賞味いただければ幸甚に存じます。

◆神水舎の高札

井戸を覆う「神水舎」の前には、左記の高札を立て、参拝の皆様に御説明する準備も始めております。

平成二六年七月二五日

大阪天満宮宮司 寺井種伯

江戸時代の大坂町人は、生活用水を河川や井戸からとつていきましたが、その井戸水は決して良水とはいえないものでした。

しかし、当宮の井戸水は、千日前の福井の水、道頓堀

天満天神の水

かねて本誌でもお知らせしてきました通り、江戸時代に美味で評判だった当宮の井戸水を再現する試みは、ようやく皆様にお届けできる技術的な目途はたちました。

しかしながら、その実現にはまだ多額の費用がかかるため、現在、皆様の御奉賛を募つております。ぜひとも社務所にお問い合わせください。天神の水を取水することにいたしました。往時の美味をご賞味いただければ幸甚に存じます。



宮周辺でこの研ぎ石も出土したのでしょうか、不思議な石として、当宮の稻荷の宮に納められたと考えられます。勾玉守りを受けられました。これは古代の装飾品である勾玉を、翡翠（ひすい）を加工して石に触れさせて研ぐ所作を行つた後、社前に祈願するというものです。玉を磨く所作によつて「御神威が光り輝くように願う」という意味合いがあります。

（神仏への崇敬と孫との会話。好詠です）。

当宮末社の白米稻荷社の回廊には「天狗・狐の爪研ぎ石」とよばれる奇石があります。一抱え程ある石に、まるで狐や天狗が爪を研いだとのよう、筋状の削り跡がついたものですね。実は、この爪研ぎ石は、古代に勾玉や管玉が作られていました。玉や管玉（くだま）を研いだ石なのです。市内には玉造という地名もあります。あつて、そこで勾玉、管玉が作られていたと想像されます。その玉造からそう遠くない当

奇石があります。一抱え程ある石に、まるで狐や天狗が爪を研いだとのよう、筋状の削り跡がついたものですね。実は、この爪研ぎ石は、古代に勾玉や管玉（くだま）を研いだ石なのです。市内には玉造という地名もあります。あつて、そこで勾玉、管玉が作られていたと想像されます。その玉造からそう遠くない当

# 御迎え人形 スタンプラリー

実は真田幸村（さなだゆきむら）  
【7月2日（水）～25日（金）】

## 和歌山県立博物館 特別展に 当宮所蔵連歌本を初めて出品

して紀中武士の芸能活動を紹介しました。

江戸時代中期、元禄文化の真っ盛りに豪華絢爛の御迎え人形は登場し、天神祭を彩りました。  
最盛期には五十体を超えた御迎え人形のうち、現存する十六体を巡るスタンプラリーを平成二十三年から始め、今年で四年目を迎えることとなりました。今年は、五カ所に七体を展示いたします。

### 一、スタンプシートの授与

7月1日（火）～25日（金）の10時～5時（25日は正午まで）に、当宮授与所において、授与します。そ

の際、御迎え人形修復基金として一枚につき100円の御寄付をお願いします。

### 二、展示人形と場所・期間

- ① 大阪天満宮（さんばそうう）・猩々（しようじよう）・豆藏（まめぞう）
- ② 帝国ホテル（おにわかまる）
- ③ OAP（大阪アメニティパーク）
- ④ 西八郎（ちんぜいはちろう）
- ⑤ 大阪くらしの今昔館（さかたのきんとき）



（昨年度スタンプラリーの様子）

- ※ 8・15日は休館日

から同年六月一日（日）まで、和歌山県立博物館において、特別展「（きのくにの城と館—紀中の戦国史—）」を開催いたしました。

大阪天満宮所蔵資料のなかから、吟百韻」を収めた『古連歌千四百』、「長享二年四月五日北野会所花の本開百韻」を収めた『連歌集』をお借りし、展示させていただきました。

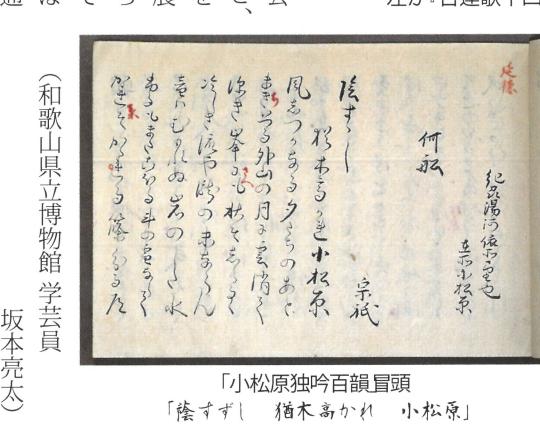
連歌活動の実態など、和歌山の武士

た湯河氏と玉置氏の活動を中心には、それら武士が活動の拠点にした城館と周辺社会の様子について紹介しました。

特に湯河政春は、室町幕府の奉公衆として京都での活動が確認でき、「北野社家日記」などにも、連歌を詠んでいる記事が散見されます。展示の中では、湯河政春の歌が収められた「新撰菟玖波集」、また本拠である小松原館（御坊市）の近くには歌仙堂があつたことなど、連歌を通して紹介しました。



左が『古連歌千四百』、右が『連歌集』



「小松原独吟百韻冒頭  
「陰すす」 猪木高かれ 小松原」

## 第十一回 あの人もこの人も



波多野 肇さん

る説もあるそうです。

そのため全国各社の祭礼において、

天狗の面を着けた猿田彦大神が、お渡りの先導役を務めることが多いのです。

波多野さんは、もともと西天満老

兵衛氏が永年「猿田彦大神」を御奉仕されていましたから、幼少のころ

に天神祭を肌で感じながら育たれた

そうです。

そのころの老松町の御自宅は、天

神祭当日になると玄関の格子戸を外し、家中に

波多野さんは、赤い縁起物（縫傘、金屏風、緋毛氈）を用いた設えを施し、お香を薰いて渡御中の天神様をおもてなし

されています。



## 大阪天満宮 神事 風月社 平成二十六年下半期秀歌

大阪天満宮 神事 風月社 平成二十六年下半期秀歌

五重塔の五層より見る奈良の街  
天平人はいかにか見けん

顧問 關 俊一

三鳥居眞中ゆ噴き上く噴水は

さすかに見事名所の一つ

顧問 浅井 與四郎

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

餅供へ得る幸をかみしむ

幹事 松村 晓二

よき事のかさね祝はむ鏡餅

としあら玉の家内やすらふ

幹事 佐野 秀子

初天神かへましようの声高く

廣場にきはふうそ替神事

幹事 森本 美也子

あらたまの年ふくよかに明け初めて

社務所 電話番号より  
よくあるお問い合わせ

## 『初宮詣』?

「初宮詣」は、一般に「お宮参り」ともい、生まれた子どもの長寿と健康を祈る行事です。正式には男子は三十一日目、女子は三十三日目に氏神様に参詣し、わが子の幸せを祈る儀式を行います。

もともとは室町時代にはじまった武家の慣習だったものが、次第に一般庶民にも広まつたようです。現在では、三十日目くらいが参詣の日として選ばれ、地元の神社だけではなく有名神社に参詣する人も多い



お宮参りでは、子どもに祝い着を着せ、父方の祖母が抱いてお参りすることが習慣になっています。これは古来、産後しばらくの間は母親に無理をさせないため、などといわれています。近年は母親や母方の祖父母なども参加することもめずらしくありません。

正式な祝い着(産着)は、男児が黒地の紋付きで、女児は友禅の

晴れ着とされます。古くは祝い着を母親の実家が調達していましたが、最近ではこだわらなくなつた

ようです。

## 新手洗所



六月一日、参拝者駐車場内に新しい「お手洗所」が竣工しました。



三十日目に行うのか、大安吉日に行うのか、とのお問い合わせが多いのですが、やはり、季節やお子様のことをよく考慮して、また無理のない楽しい思い出になるようにして頂きたいと思つています。真夏や真冬なら少し日を先にしてもいいですし、必ずしも午前中でなくとも構いません。

またお子様の額に朱色で「大」の字を書く習慣がありますが、もともとは「犬」と書いたようです。このことは社報四一号でも取り上げていますのでご覧ください。女子は「小」と書くことがあります。いずれにしましてもお家を出る前にお肌に優しい口紅などでお書き頂くのがよいと思いまます。

出生率の低下する現代においては誠に意義深く大切にしたい人生儀礼と申せましょう。

当宮では正月三カ日だけでも五〇万人を超える参拝者があり、七月の天神祭では数えきれない群衆が訪れます。従来は駐車場の南北に二ヵ所ありました。しかし年々増加する傾向にあります。



そのような状況に対応するため、懸案であつたお手洗い所を新設したものです。従来は駐車場の南北に二ヵ所ありました。たび、駐車場北側に統合し、男子用、女子用、

長らくご不便をおかけしておりますが、今後は快適にご利用していただけるものと思います。

古来からお手洗いには美人の神様がおいでになります。だけるものと思ひます。古来からお手洗いには美人の神様がおいでになります。どなにかの歌にも歌わっていましたが、皆様には清潔にご利用頂きます。よろお願い申し上げます。

## 人事任免

### ●新権禰宜紹介

四月一日付

石川 陽介 権禰宜

初心を忘れず、眞面目に奉仕致します。



権禰宜になりましたから新しい業務、また今までの業務とともに精一杯頑張って参ります。



皆様に気持ち良く、お参りしていただけるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

上山 裕嗣 権禰宜

袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

一意専心、神命に奉仕致します。  
よろしくお願ひ申し上げます。

植村 彩夏

わからないことばかりですが、頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

四月から権禰宜となりました

したが、初心を忘れず、日々奉仕に励みたいと思ひます。

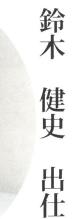
河野 将也 出仕



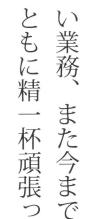
袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任神職紹介

四月一日付



●新任巫女紹介  
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

中道 朝海

袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

●退任  
三月三十一日付



四月から権禰宜となりました

したが、初心を忘れず、日々奉仕に励みたいと思ひます。

巫女 金住 晶子



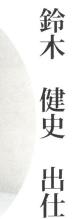
一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひ致します。



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任神職紹介

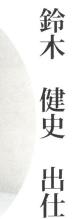
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

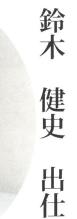
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

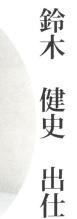
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

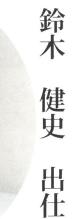
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

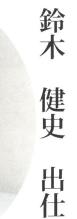
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

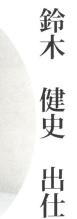
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

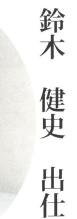
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

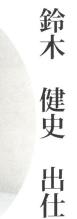
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

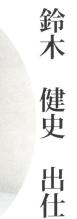
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

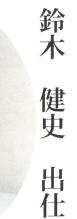
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

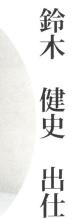
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

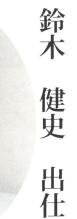
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

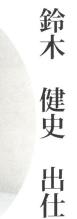
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

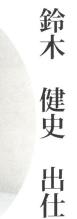
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

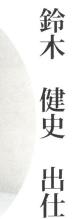
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

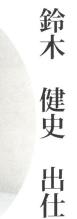
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

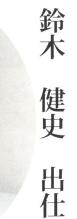
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

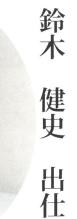
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

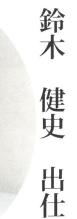
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

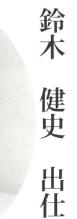
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

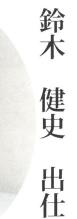
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

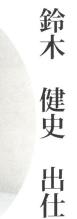
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

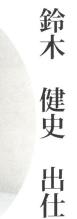
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

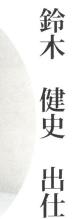
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

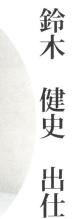
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

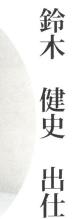
四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

新任巫女紹介

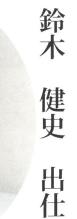
四月一日付



毎日、笑顔いっぱい頑張ります。

新任巫女紹介

四月一日付



袴の色は変わりましたが、心は白色のまま、神命奉仕に勤しみ励みますので、よろしくお願ひ致します。

## 天神橋筋商店街の大提灯

### 上方落語協会から奉納



去る七月十一日、当宮の参道で、日本一の長さを誇る天神橋筋商店街に、「大阪大溝宮参詣道」と書かれた大提灯が新調されました。従来から吊るされてきたものですが、「天溝天神繁昌亭」を運営される上方落語協会が、このたび奉納されたものです。

この大提灯は、当宮の参道の目印となるとして新調してきましたが、第四代目に当たる今回の提灯は、高さ二・三メートル、幅一・七五メートルで、「繁昌亭」への案内板も付けられています。巨大な提灯には、商店街の賑わいを願う皆様の大きな気持ちが込められているようです。

このたびのお披露目には、桂文枝会長は、「大阪天満宮、商店街の皆様にお世話になつて繁昌亭ができました。どんどん活性化できればいいなと思っております。」と応えておられました。

当宮参道である商店街の大提灯の新調によって、当宮職員も気持ちを新たに神命奉仕に励みたいと思いま

す。

このたびお披露目には、桂文枝会長、天神橋二丁目商店街事業協同組合の盛岡淑郎理事長、提灯を作製された「提灯舗かわい」の河合清司社長をはじめ、多くの落

### 編集後記

本誌6頁で御紹介しました「神仏靈場会」は、早く平成十七年に、当宮寺井宮司を含む十七社寺の代表者と、宗教学者の山折哲雄氏が発起人となつて発足し、平成二十年三月に比叡山延暦寺で設立総会が開催されたものです。

我が国歴史を振り返りますと、六世紀に仏教が公伝されて以来、神社と寺院は共存して、日本人の宗教世界を形成してきました。しかし、明治元年（一八六八）の神仏分離政策により、私たちの宗教意識は、前近代のそれとは異なつてしまつたようです。「神仏靈場会」による巡拝は、我が国本来の宗教世界を再認識する機会となりそうです。

當宮参道で執り行い、上方落語協会の桂文枝会長、天神橋二丁目商店街事業協同組合の盛岡淑郎理事長、提灯を作製された「提灯舗かわい」の河合清司社長をはじめ、多くの落

てんまてんじん 第66号  
大阪天満宮社報  
平成26年7月20日印刷  
平成26年7月25日発行  
発行人 寺井種伯  
発行所 大阪天満宮社務所  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-8  
TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社